

市立恵那病院経営強化プラン(概要版)

1. 策定の趣旨・計画期間

【策定の趣旨】

令和4年3月に総務省から「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」が示されました。ガイドラインでは、公立病院の経営が持続可能な地域医療提供体制を確保する必要があるため、市立恵那病院経営強化プラン(以下、経営強化プラン)を策定します。

【計画期間】

令和6年度から令和9年度までの4年間

【市立恵那病院の概要】

【診療科】

内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・腎臓内科・老年内科・外科・呼吸器外科・消化器外科・肛門外科・乳腺外科・整形外科・小児科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・放射線科・救急科・麻酔科・脳神経外科

【許可病床】

199床(一般病棟 148床 回復期リハビリテーション病棟 51床)

2. 目指す姿と取り組みの柱

1. 安心して子供を産み育てることができる環境を整え、人口減少にも歯止めを掛けることができるよう、産婦人科病棟の設置
2. 人工透析患者を対象とした血液浄化センターの設置
3. がん患者を包括的にケアするための腫瘍総合ケアセンター(化学療法室)を設置
4. 5疾病の早期発見と保健指導、健康管理を充実させるための健康管理センターの設置

【市立恵那病院基本理念】

私たちは地域住民のために、質の高い、思いやりあふれる地域包括医療を展開いたします。

【基本方針】

1. 患者さまの権利を尊重し、患者さま中心のチーム医療を展開いたします。
2. 質の高い医療を提供できるように研鑽に努め、保健・医療・介護・福祉にわたるサービスを提供し、地域包括医療に貢献いたします。
3. 地域住民に安心され、長く親しまれ、信頼される病院を目指します。

3. 経営強化プランにおける取組

(1) 役割・機能の最適化と連携の強化

● 地域医療構想を踏まえた当該病院の果たすべき役割・機能

東濃二次医療圏の東部に位置する市立恵那病院は、恵那市の中核的医療機関として一次・二次救急医療、急性期医療、回復期医療を担っています。また、東濃圏域における「へき地拠点病院」の指定を受け、圏域内外のへき地医療の中心的な役割を担っています。

地域医療構想においては、岐阜県立多治見病院が東濃圏域の高度急性期医療の中心的役割を担い、市立恵那病院は急性期医療、回復期医療を担うものとされています。

恵那市で唯一の産婦人科を標榜し東濃東部地域の周産期医療の役割を担っています。

	令和5年(2023年) (プラン策定)	令和7年(2025年) (地域医療構想)	令和9年(2027年) (目標)
急性期	148床	148床	148床
回復期	51床	51床	51床
計	199床	199床	199床

● 地域包括ケアシステムの構築に向けた役割・機能

地域の中核病院として、病診連携、病病連携を推進し併設している訪問看護ステーション、通所リハビリテーション及び老人保健施設と連携し在宅医療への支援を充実していきます。

● 機能分化・連携強化

恵那市の近隣市には、それぞれ急性期医療を担う病院が設置されており、専門的な高度医療は連携し、患者の受入体制を構築しています。一方で、市立恵那病院は回復期リハビリテーション機能を充実します。また、周産期医療を充実し安心して出産し子育てができる環境を整備していきます。

● 一般会計の負担の考え方

総務省が通知する公営企業繰り出し基準を基本とします。

また、運営に当たっては、指定管理者である(公社)地域医療振興協会と協議の上、不採算医療もこれまで同様に実施していくことから、市が運営交付金を負担しています。

市立恵那病院経営強化プラン(概要版)

● 住民理解のための取組み

市広報誌、ホームページ等による情報発信や議会への決算・経営状況の報告を行います。また、指定管理者制度による市立恵那病院の管理運営について、毎年モニタリングを実施し、結果報告を公表していきます。

(2) 医師・看護師等の確保と働き方改革

地域医療振興協会本部、藤田医科大学病院、愛知医科大学病院、岐阜大学病院、名古屋徳洲会総合病院、名古屋市立大学病院等と緊密に連携・協力し医師確保に努めます。また、岐阜県医学生修学資金制度、東濃地域医師確保奨学資金等貸付制度、市立恵那病院看護部奨学金制度などの免除要件のある公的支援制度を積極的に活用して、医師等の確保に引き続き取組みます。市立恵那病院総合診療専門研修も継続し医師の確保に努めます。

(3) 経営形態の見直し

平成15年12月に指定管理者制度を導入し、現在の指定管理期間は令和13年度までとなっています。この経営形態を継続・維持するとともに、医療従事者の確保に努め、より良い病院を目指していきます。

(4) 新興感染症の感染拡大時に備えた平時からの取組み

平時から病床確保と入院患者の受入をはじめ、発熱外来の設置やPCR等の各種検査等で市の中心的な役割を果たしており、感染状況に合わせて県の指導や、岐阜県立多治見病院、総合病院中津川市民病院と連携して中等症患者の受入を積極的に行い、地域の医療を維持していきます。

(5) 施設・設備の最適化

市立恵那病院は、平成28年11月に新病院として建設されました。

施設・設備の更新については、中長期的な視点からメンテナンスを行い、修繕管理計画に基づき適宜改修等を行います。

医療機器については、毎年度の予算額を平準化し、順次更新を行っています。高額医療機器については、高額医療機器更新計画を策定し計画的に更新を行います。

(6) 経営の効率化等

恵那市の中核病院として、地域になくてはならない医療を提供し、将来にわたり子どもから高齢者までが安心して暮らすことができ、生き活きとした地域であり続けるためには、持続可能な地域医療の実現・確保が不可欠なため、収支の改善等に取り組む、健全な経営体質づくりを行います。

1) 経営指標のかかる数値目標

① 収支改善に係るもの

区分	単位	令和4年度 (実績)	令和5年度 (見込)	令和9年度 (計画)
経常収支比率	%	107	101	101
修正医業収支比率	%	84	86	91

② 経営の安定性・収入に係るもの

区分	単位	令和4年度 (実績)	令和5年度 (見込)	令和9年度 (計画)
1日当たりの入院患者	人	116.2	115.0	139.3
入院診療単価	円/日	50,664	52,000	52,000
病床稼働率	%	58.4	57.8	70.0
1日当たりの外来患者	人	227.6	231.9	232.0
外来診療単価	円/日	12,965	13,400	13,400

③ 経費削減に係るもの

区分	単位	令和4年度 (実績)	令和5年度 (見込)	令和9年度 (計画)
材料費の対事業収益比率	%	4.6	4.9	4.9
薬品費の対事業収益比率	%	8.0	8.5	8.5
委託費の対事業収益比率	%	12.1	11.6	11.6

4. 経営強化プランの点検・評価・公表

経営強化プランについては、毎年度の事業実績により点検・評価を行い、進捗状況等の情報をホームページで公表する等、積極的な情報提供に努めます。また、恵那市地域医療ビジョンの方向性に沿った実施計画を推進し、計画に変動等が生じた場合は、必要に応じて計画内容を見直します。